

# B5 病棟

## B5 病棟の特徴と治療

血液内科病棟では、白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器腫瘍から骨髄異形成症候群などの骨髄不全、再生不良性貧血、凝固異常などを含めた血液疾患全般の治療を行っております。治療法としては、抗がん剤による化学療法、自家末梢血幹細胞移植や、血縁ドナーまたは骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植など幅広い治療法を行っています。その中で移植が必要な患者さんに対する治療や看護の方針を話し合う「移植カンファレンス」を週に1回行っており、医師や看護師だけでなく医療ソーシャルワーカーや薬剤師も含め多職種でカンファレンスを行い、患者さん一人ひとりに合った医療が提供できるように、スタッフ一同心がけております。



B5 病棟の特徴として、免疫力低下等による感染を防止することを目的としたクリーンルームが8床あり、感染に注意することはもちろんのこと、様々な生活制限によるストレスや不安に対しても看護を行っております。またB5ならではの、検査もあり、骨髄より骨髄液を採取し血液疾患の確定診断や治療の効果判定を行う骨髄穿刺（マルク）や、腰椎内のくも膜下腔から脳脊髄液を採取しがん細胞の脳浸潤の有無を調べる腰椎穿刺（ルンバール）などの検査も行っています。

## B5 病棟のスタッフ！

現在、看護師36名と看護助手3名のスタッフが働いています。病棟全体で知識や情報の共有ができ、より高度な看護を目指し高め合える環境があります。また、がん看護に興味を持ち、移植後長期フォローアップ（LTFU）の資格を持つ看護師が3名おり、移植コーディネーターを目指す看護師もいます。

経験年数に関わらず、その患者さんへの看護に対して全員で意見を出し合い、実践に繋げています。病床数が多いため多忙の日々ですが、患者さんへの熱い看護を提供する姿勢は、どの病棟にも負けません！！

また新人看護師教育に関しても、教育担当だけではなく病棟全体で新人看護師が成長できるようサポートをしています。中途採用の方も多く、1日でも早く病棟の一員となれるよう関わっています。

